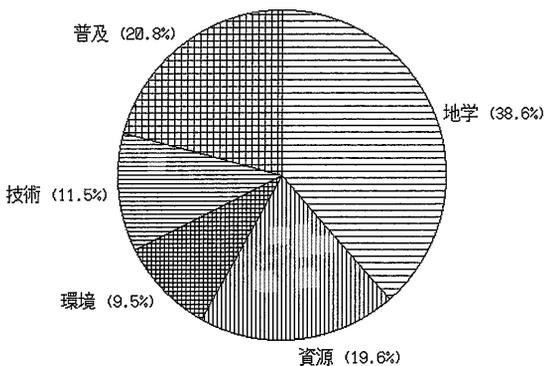


地質相談所からみた1992年度

昨年度の技術相談件数は1,083件

1992年度に本所・北海道支所と各地域地質センターに寄せられた技術相談は1,083件(前年度比159件減)でした。前年度には、特殊地質図「札幌及び周辺地域の地盤地質」について北海道支所に約200件もの問い合わせが集中豪雨的に寄せられたので(本誌455号), その分を差し引くと、92年度の件数は前年度より増加したと言えます。

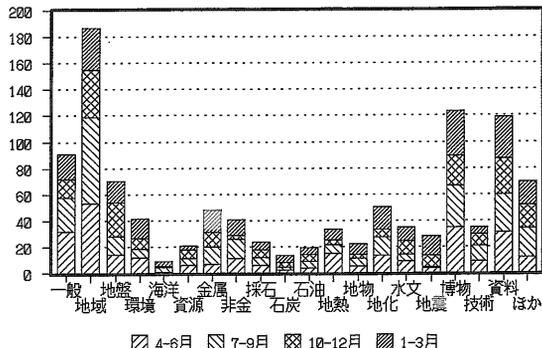
相談内容の大きな傾向をみるために、地学・資源・環境・技術・普及の5項目にまとめて件数の百分比で表すと第1図のようになります。この中で「技術」は地球物理・地球化学・測量・薄片作成など各種の手法、「普及」は出版物や地質標本館の業務に関するものを指します。



第1図 1992年度の大分類別件数百分比

内容の分野別件数は第2図のようになります。地域地質(187件)が最も多く、以下、博物(124件)、資料(119件)、鉱物資源(113件)、地盤地質(70件)、エネルギー資源(66件)などの順になります。なお「博物」は岩石・鉱物・化石などに関するものです。

地域地質と各種の研究資料は当所の基幹的な分野ですから、問い合わせが多いのは当然でしょう。資源関係のうち鉱物資源は金属(48件)、非金属(41件)、採石(24件)、エネルギー資源では地熱(34件)、石油・天然ガス(19件)、石炭(13件)の順にそれぞれなります。ちなみに石炭は中国のものが主体です。

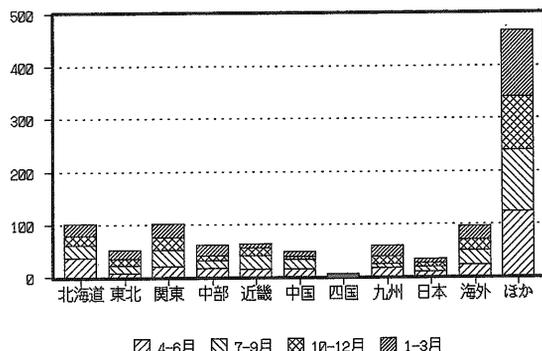


第2図 1992年度各四半期の分野別件数比較
 略号 一般：地学一般，地域：地域地質，地盤：地盤地質，非金：非金属鉱床，鉱床：鉱床一般，地物：地球物理，地化：地球化学

海外地域は中国がトップ

相談のうち617件はどこかの地域を対象とするものです。その件数は多い順に、関東(103件)、北海道(102件)、海外(97件)、近畿(62件)、中部(60件)、九州(58件)、中国(47件)、四国(5件)の順でした。これらの比較は第3図のようになります。

海外では中国(19件)が突出し、以下インドネシア(9件)、ロシア(8件)、アメリカ(5件)、モンゴル・韓国(各4件)、タイ(3件)などの順になり、全部で39の国又は地域にわたりました。なお北方領土(北海道に含めてある)に関するものは7件あり



第3図 1992年度各四半期の地域別件数比較
 注) 沖縄は九州に、北方領土は北海道にそれぞれ含めてある。「ほか」は地域に無関係なもの。

ました。

大陸別の件数百分比は第4図の通りです。アジアが46.2%で最も多く、以下ヨーロッパ(16.1%)、オセアニア(15.1%)、アフリカ・中南米(各6.5%)、北米(5.4%)、世界全体(4.3%)の順になります。

クイズ番組のネタも

相談を寄せた方々の職種は、企業(492件)が全体の半数近くを占め、以下、その他(186件)、国・公立機関(160件)、教育機関(113件)、マスコミ(87件)、団体(45件)の順になります。なお個人と職種不明(多くは企業家)はその他に含めてあります。百分比は第5図のとおりです。

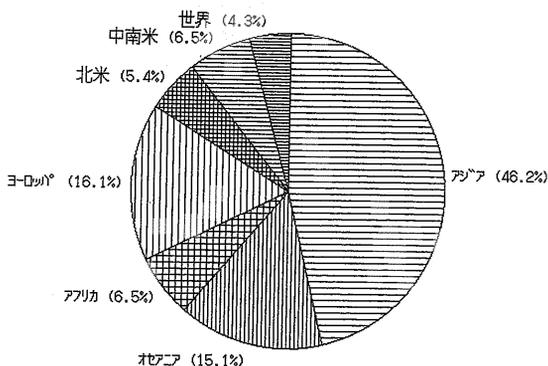
個人の最年少は小学3年生でした。夏休みや学園祭などの季節には、学生さん達から自由研究に関する問い合わせがふえます。中には卒論に関する質問もあり、「指導教官に尋ねた方がよいのでは」と首をかしげる場面もありました。

新聞社や放送局などマスコミからの相談も全体の8%を占めます。科学・教育関係の記事や番組に用いるのはもとより、「地下資源についてクイズに出題したいのだが」というものもありました。

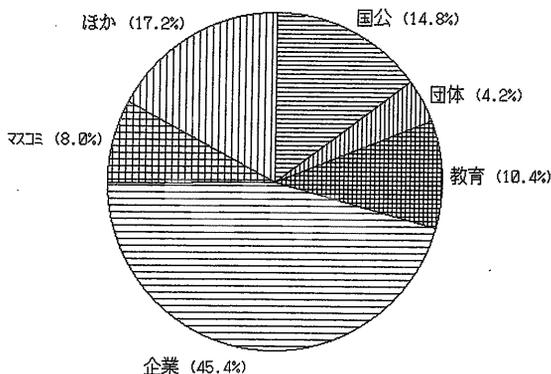
雑問、石器の原岩

相談内容で目立ったのは、都市部の地盤地質や採石(石材・骨材)などのほか、CO₂の地下貯留、深層石油ガスといった新技術に関するものでした。また近畿・中部地域地質センターには「地震考古学」など地震地質学についての問い合わせが多数寄せられました。

近年の遺跡ブームを反映して、「石器の原岩は何



第4図 1992年度の大陸別件数百分比



第5図 1992年度の相談依頼者職種別件数百分比

か、産地はどこか」と、各地の教育委員会などから出土品を持ち込まれることが多く、92年度は10件ありました。石器はこわすと価値がなくなる貴重品なので、そのままを肉眼で調べるしかありません。

風化した小さな石器の表面をルーペによる観察だけで岩質をきめるのは至難のわざ。産地の推定まではとてもという感じです。岩石や鉱物に明るい技官が何人か寄り集まり、問題の石器を前に、ああでもない、こうでもない、と議論の末に一応の結論に到達すると、居合わせた一同がほっとした気持になります。石器の鑑定は難問です。

所員120名が対応

当所各部の相談処理件数は、地質相談所(237件)、北海道支所(149件)、近畿・中部地域地質センター(127件)、地質標本館(80件)、地質部(75件)、地質情報センター(71件)などが主なところで

92年度に相談業務を1件以上担当した所員は120名、年間に12件(月平均1件)以上扱った者は22名でした。全所員の約3分の1が、相談業務を通じて社会に何らかの貢献をしたこととなります。

各地の地質相談窓口

北海道支所(札幌) Tel. 011-709-1811
 本所(つくば) Tel. 0298-54-3540
 近畿・中部地域地質センター(大阪) Tel. 06-941-5377
 九州地域地質センター(福岡) Tel. 092-551-6099